

— 次の①～⑩の——部について、ひらがなは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。また送りがなが必要な場合は、送りがなまで書くこと。

- ① 運命に身をゆだねる。
- ② 山道でけいてきを鳴らす。
- ③ 行進のきしゆに選ばれる。
- ④ 町の発展にこうせきを残す。
- ⑤ 万国はくらんかいが開かれる。
- ⑥ 台所をせいけつに保つ。
- ⑦ 銀行にお年玉をよきんする。
- ⑧ 食事の支度をする。
- ⑨ 万華鏡を買ってもらう。
- ⑩ 国王が臣下を率いる。

— 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

【I】

① 私は十数年前から毎年朝顔を植えている。それは花を見るためよりも葉が毒虫に刺された時の薬になるので、絶やさないようにしている。蚊やぶよは素よりむかでもはちでも非常によく利く。葉を三、四枚、両の掌でしばらく揉んでいると、ねっとりとした汁が出て来る。それを葉と一緒に刺された個所に擦りつけると、痛みでも痒みでも直ぐ止り、あと、そこからいつまでも汁が出たりするようなことがない。

私は今住んでいる熱海大洞台の住いの裏山の中腹に小さい掘立小屋の書齋を建てた。狭い場所で、窓の前は直ぐ急な傾斜地なので、用心のため、低い四つ目垣を結び、その下に茶の実を蒔いた。ゆくゆくは茶の生垣にするつもりだが、それは何年か先の事なので、今年は東京の百貨店で買った幾種類かの朝顔を種を蒔いた。夏が近づくとそれが四つ目垣に絡み始めた。反対の方に地面を這う蔓があると、私はそれを垣の方にもどしてやった。茶も所々に芽を出したが、繁った朝顔のために気の毒な位日光を受けられなかった。この夏は私の家は子供や孫で、満員になった。そのため、一月余り私は山の書齋で寝起きたが、年のせい、朝、五時になると眼が覚め、まだ眠いのにもう眠ることができず、母屋の家族が起きるまでは景色を眺め、それを待っていないければならぬ。私の家は母屋も景色はいいが、書齋は高いだけに視野が広く、西南の方角からいうと、天城山、大室山、小室山、川奈の鼻、それと重なって新島川奈の鼻をちよつと離れて利島、更に遠く三宅島までも見える事がある。しかしこれはよほどよく晴れた日でないと思えず、一年に二、三回幽かに見える程度である。正面には小さい初島、そのうしろに大島、左には真鶴の鼻、その彼方に三浦半島の山々が眺められ、珍らしい景色のいいところだ。私はこれまでも尾道、松江、我孫子、山科、奈良という風に景色のいい所に住んで来たが、<sup>②</sup>この景色はなかでも一番いいように思う。

毎朝、起きると、出窓に胡坐をかいて、煙草をのみながら、景色を眺める。そしてまた、直ぐ眼の前の四つ目垣に咲いた朝顔を見る。

私は朝顔をこれまで、それほど美しい花とは思っていなかった。一つは朝寝坊で、咲いたばかりの花を見る機会がすくなかったため、多く見たのは日に照らされ、形のくずれた朝顔で、その弱々しい感じからも私はこの花を余り好きになれなかった。ところが、この夏、夜明けに覚めて、開いたばかりの朝顔を見るようになると、私はその水々しい感じを非常に美しいと思うようになった。カンナと見比べ、ジュニアムと見比べて、この水々しい美しさは特別なものだと思った。朝顔の花の生命は一時間か二時間と聞いていいだろう。私は朝顔の花の水々しい美しさに気づいた時、なぜか、不意に自分の少年時代を思い浮かべた。あとで考えた事だが、これは少年時代、既にこの水々しさは知っていて、それほど思わず、老年になつて初めてそれを大変美しく感じたのだらうと思つた。

母屋から話声が聴こえて来たので、私は降りて行つた。その前、小学校へ通う孫娘の押花の材料にと考え、瑠璃色と赤と小豆色の朝顔を一輪ずつ摘んで、それを上向けに持って段になった坂路を降りて行くと、一疋の虻が私の顔を廻りを煩く飛び廻つた。私は空いている方の手で、それを追つたが、どうしても逃げない。私は坂の途中でちよつと立止つた。と、同時に今まで飛んでいた虻は身を逆さに花の芯に入つて蜜を吸い始めた。丸味のある虎斑の尻の先が息でもするように動いている。

しばらくすると虻は飛込んだ時とは反対にやや不器用な身振りで芯から抜け出すと、直ぐ次の花に——そして更に次の花に身を逆さにして入り、一通り蜜を吸うと、何の未練もなく何所かへ飛んで行ってしまつた。虻にとっては朝顔だ<sup>⑤</sup>けで、私という人間は全く眼中になつたわけである。そういう虻に対し、私は何か親近を覚え、愉しい気分になつた。私以上にそういう事に興味を持つ末の娘にその話をして、何という虻か昆虫図鑑で一緒に調べたが、花虻というのがそれらしく、もしそれでなければ花蜂だろうという事になつた。調べながら、虻科の羽根は一枚ずつで、その下に子羽根はないが、蜂科の方は親羽根の下に子羽根がついているという事を知つた。朝顔を追つて来たのは何れであつたか。見た時、虻と思つたので虻と書いたが、今もそれが何れかは分からずにいる。

(志賀直哉 「朝顔」問題作成のため一部改編している。)

#### 【注】

\* 四つ目垣 …… すき間が四角になるよう竹をあらくたてよこに組み、なわでゆつた垣。  
\* 虎斑 …… 虎の背のように、黄色の地に太く黒いしまのあるもの。

問一 このような文章の種類をなんといいか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 小説
- イ 随筆
- ウ 評論
- エ 詩

問二 ———部①「私は十数年前から毎年朝顔を植えている」とあるが、それはどのような目的からか。もっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 少年時代からとても美しい花だと思つていたから。
- イ 小学生の孫娘が、押花の材料として使うから。
- ウ 花を見るためよりも葉が毒虫に刺された時の薬になるから。
- エ 最近朝顔の本当の美しさに気が付き感動したから。

問三 ———部②「この景色はなかでも一番いいように思う。」とあるが、筆者が景色を眺めるのはどのようなときだと述べているか。本文中の言葉を使ってくわしく説明しなさい。

問四 — 部③「朝顔の花の生命は一時間か二時間とっていいだろう。」について、次の各問に答えなさい。

- (1) このときの朝顔の様子を端的に表す言葉を、七文字で本文中から書き抜きなさい。
- (2) これと反対の朝顔の様子を本文中の言葉を使って、二十五字以内で説明しなさい。

問五 — 部④「息でもするように動いている。」とあるが、この表現の特徴を説明した文としてもっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 逆さまに蜜を吸う虻の様子を見ていて、尻が頭だと勘違いしている。
- イ ひそかに、「私」に気づかれないように蜜を吸う虻の様子を表している。
- ウ 生命力の強さを表現するため、尻の先の丸味に注目して描写している。
- エ 本来尻は息をしないが、一生懸命蜜を吸うために動く虻の様子を表している。

問六 — 部⑤「私という人間は全く眼中になかったわけである。」とあるが、虻のどのような行動から筆者はそう感じたのか説明しなさい。

問七 本文中〳〵部「老年になって、初めてそれを大変美しく感じたのだらうと思った。」とあるが、それはなぜか。八十字程度であなたの考えを書きなさい。

問八 次にあげる【Ⅱ】の文章は、二〇一四年八月二五日(月)「天声人語」(朝日新聞)に掲載された「朝顔の花の寿命」というものである。これを読み、あとの問に答えなさい。

【Ⅱ】

「朝顔の花一時(ひととき)」と言い「朝顔の露」と言う。はかないものたえで、夏の明け方に咲いた花は一日もたない。朝顔のみずみずしい美しさは「一時間か二時間とっていい」と志賀直哉が書いている。

この大作家は、老年まで朝顔をそれほど美しいとは感じなかった。朝寝坊で、「多く見たのは日に照らされ、形のくづれた朝顔」だった。ある夏、夜明けに目覚めて開いたばかりの花を見て、印象がかわったそうさ。やはり早起きというもの、三文の徳があるらしい。

当方も毎夏、朝顔を育てて眺めている。朝刊が配達されること、露をふくんだように咲く姿には、「凜」と「幽」の字が重ねた趣がある。そして志賀の言うように、移ろいは速い。

そうしたはかなさも、遺伝子の組み換えで変わるのだろう。農研機構花き研究所(茨城県つくば市)などの研究チームが、朝顔の X にかかわる遺伝子を見つけたと、夏休み前の記事で読んだ。遺伝子の働きを抑えたら、花の寿命が約2倍に延びたそうさ。

夜もしばまず、あくる朝まで咲いていた。遺伝子は、英語の「はかない」という意味にちなみエフェラル1(ワン)と名付けられた。切り花の観賞期間を延ばす応用も期待できるという。

はかなさから、しぶとさへ。技術の進歩は色々なことを可能にしてくれる。とはいっても朝顔はやはり朝がいい。  
\*<sup>ふ</sup>燕村の名高い絶唱へ朝がほや一輪深き淵の色も早朝の涼気すずきのなかでこそその一句だろう。ゆく夏。拙宅せつたくの鉢はちはき  
のうも二つ花をつけた。

【注】

- \* 燕村 …………… 江戸中期の俳諧世界の中心的存在となった人物。
- \* 絶唱 …………… この上もなくすぐれた詩歌。
- \* 拙宅 …………… 自分の家をへりくだってという語。

(1) — 部①「移ろいは速い。」とあるが、そのような朝顔の様子を一言で言い表している言葉を四字で答えなさい。

(2) 空欄 X に入る言葉としてもっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 進化
- イ 老化
- ウ 衰退
- エ 変容

(3) — 部②「技術の進歩は色々なことを可能にしてくれる。」とあるが、ここではどのようなことが例として挙げられているのか説明しなさい。

(4) 筆者の考えを表すのにもっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 早朝にしか見られない朝顔の「凛」と「幽」が重なったような美しさに感動し、早起きは三文の徳であるためしぶとく咲く朝顔が開発されるのに反対している。
- イ 遺伝子の発見により花の寿命が延び、早朝にしか鑑賞できなかつた朝顔がしぶとく咲くのを期待できるので、はかなかつた朝顔を長く鑑賞できることを喜んでいる。
- ウ 志賀直哉と燕村の朝顔に対する鑑賞の表現を紹介したうえで、これから技術の進歩によってその美しさをもっと認められるようになるだろうと予想している。
- エ 技術の進歩は様々なことに応用できよい面もあるが、朝顔に関しては、早朝のみ咲くからこそ美しいのであり、しぶとさよりもはかなさに趣があると述べている。

(5) 【I】と【II】の二つ文章を読んで、朝顔の「はかなさ」についてあなたの考えを百二十字以内で書きなさい。ただし、解答欄の一マス目から書きはじめ、句読点や記号も一字としてあつかい解答すること。

三

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

ソメイヨシノの開花は、目をみはるような「はなやかさ」と形容される<sup>①</sup>ことがあります。冬の寒さを超えて暖かくなり、春の訪れを肌で感じると、私たちの心も明るくなってきています。その気持ちの<sup>②</sup>が、そのように感じさせるのかもしれませんが。

でも、ソメイヨシノの開花が「はなやか」なのは、私たちの気持ちのためだけではありません。「なぜ、ソメイヨシノの開花は「はなやか」なのか」という「ふしぎ」が浮かびあがります。

その「ふしぎ」の一番の理由は、咲くときには、同じ地域や同じ場所にある株の花がいつせいに咲くことです。ソメイヨシノは「春の花」の代表のようにいわれますが、春の間、長く咲いているわけではありません。

春に咲くというよりは、月日を限定して咲く花です。春の暖かさによって花咲く時期は年ごとに多少ずれます。

**A**、咲くときには、同じ地域や場所に育っている株の花がいつせいに咲きます。

「世の中は三日見ぬ間の桜かな」と、詠われます。この歌は、「三日間気づかずいたら、満開状態のサクラの花がいつせいにあつという間に散ってしまった」という意味です。だから、<sup>③</sup>を象徴するのに使われます。

しかし、もともとは、この歌は、「世の中は三日見ぬ間<sup>④</sup>桜かな」であり、「三日気づかずにいたら、サクラの花がいつせいに咲きはじめて、咲きそろっていた」という意味であるといわれます。

このように、ソメイヨシノだけでなく、多くのサクラは、咲き始めるとあつという間に<sup>⑤</sup>しまいます。私の住んでいる京都市では遅い年や早い年がありますが、ソメイヨシノは、およそ四月はじめの小学校、中学校などの入学式のころに<sup>⑥</sup>、いつせいに花を咲かせます。

**B**、ソメイヨシノの花は、同じ地方では、すべての株が月日を定めて、いつせいに咲くのです。これが、サクラの開花が「はなやか」である、一つの大切な理由です。

花がいつせいに咲くことに加えて、ソメイヨシノの開花が「はなやか」なのは、花が咲くときの花の個数です。こ

れは、中途半端な数ではありません。機会があれば、大きなソメイヨシノの木が満開で花を咲かせているとき、花の個数を数えてみてください。

一本の木に咲いている花の個数が一〇万個を超えることもめずらしくありません。ほぼ同じ大きさのウメの木に咲く花の個数と比較してみてください。<sup>⑦</sup>その個数には、大きな差があるのです。

サクラは、はなやかに咲くために、芽の中で準備しているのです。春に暖かくなってくると、冬の間硬く身を閉ざし寒さに耐えていた芽がほころびはじめ、梅もサクラも「ツボミがふくらむ」と表現されます。

たしかに、芽の中にあるツボミが大きくなるのですから、サクラの場合もウメの場合も、このように表現しても差し支えありません。でも、サクラの場合には、同じように「ツボミがふくらむ」と表現しても少し<sup>⑧</sup>ことを知っておかねばなりません。

ウメでは、一つの芽から一つの花が咲きます。ですから、ウメの場合、「ツボミがふくらむ」というときには、一個のツボミそのものが芽の中でほころんでいるのです。それに対し、サクラでは、一つの芽の中に、複数個のツボミが含まれています。ですから、「ツボミがふくらむ」というときには、芽の中の複数個のツボミがほころんでいるのです。

「ほんとうに、サクラの一つの芽の中に複数個のツボミが入っているのか」と疑問に思う人もいます。でも、サクラの花が咲くときには、一つの芽から複数本の花柄が伸び出し、それぞれの柄の先に花が咲きます。花が咲いている状態を観察すれば、芽の中に複数個のツボミが入っていることに納得がいくはずですよ。

一個の芽から咲く花の個数は、ソメイヨシノの木の健康状態を示す指標とされます。その個数により、木の健康の程度は三段階に分けられることがあります。一つの芽から六個の花が咲くと「とても健康な木」、四〜五個で「健康な木」、三個以下なら「元気がない木」と評価されます。

ふつうのソメイヨシノの名所では、<sup>⑨</sup>の場合が多く見られます。しかし、木の世話が行き届いている各地の植

物園や青森県の弘前公園などのソメイヨシノは、四く五個が多く、「とても健康な木」と評価される六個の花を咲かせることもあります。

〔C〕ウメとソメイヨシノのほぼ同じ大きさの木で、花が満開になると、ウメの場合より、サクラの個数はずつと多くなるのです。サクラの開花の「はなやかさ」はいつせいに咲くことに加えて、花の個数が多いことです。それに加えて、もう一つあります。

サクラには、春、花が葉っぱの出たあとに咲くものがあります。また、ヤマザクラと呼ばれるサクラには、そのような性質をもつものが多くあります。ところが、ソメイヨシノには、はなやかさを演出できるもう一つの性質があります。

それは、花が葉っぱが出るより先に咲くという性質です。ソメイヨシノでは、春に、葉っぱが出るより前に花が咲きます。まるで、枯れ木に花が咲いたようになります。葉っぱが出るより前に花を咲かせることに、<sup>⑩</sup>どんな利点が考えられるでしょうか。

植物たちが美しくきれいな花を咲かせる理由は、虫や小鳥たちには、葉っぱのない樹木は枯れ木にみえているかもしれません。枯れ木だと思っていた木が、暖かくなって、突然、パッと美しくきれいな花を咲かせると、虫や小鳥たちは驚くはずで、

驚かせれば、虫や小鳥たちに目立ちます。だから、虫や小鳥たちを誘い込むことができ、花粉を運んでもらえます。なるべく春の早くに、葉っぱもないうちに、花をパツといっせいに咲かせることは、目立つのに役立ちます。

緑の葉っぱが出るより先に花が咲くのは、サクラに限った性質ではありません。ソメイヨシノだけでなく、春に花咲く植物たちの中には、ウメ、モモ、コブシ、モクレン、ハナミズキなどのように、葉っぱが出るより先に花を咲かせる花木が多くあります。

これらの樹木の開花も、はなやかです。でも、ソメイヨシノの場合には、この性質と、「いつせいに咲く」という

性質に加えて、「花の個数が中途半端ではない」という性質とがあいまって、「はなやかさ」が<sup>⑪</sup>されているのです。

(田中修「第一話 サクラの「七ふしぎ」」『植物はすごい 七不思議篇』所収)より。作問にあたり、一部改編している。)

【注】 \* 花柄 …………… 花軸から分かれ、その先端に花をつける小さな枝。

問一 — 部①「形容される」のここでの意味としてもっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア たとえられる イ おぎなわれる ウ おきかえられる エ いいかえられる

問二 空欄②にあてはまる語句としてもっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 向上 イ 変動 ウ 高揚 エ 抑揚

問三 空欄③にあてはまる表現としてもっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 世の中の移り変わりとまどう心情 イ 世の中の浮き沈みのはかなさ  
ウ 世の中の移り変わりの激しさ エ 世の中の浮き沈みに揺らぐ真理

問四 空欄④にあてはまるひらがなを答えなさい。

問五 空欄⑤にあてはまる語句を本文中より書き抜きなさい。

問六 空欄⑥にあてはまる表現としてもっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。  
ア 限定して    イ さきがけて    ウ 追いかけるように    エ 満を持して

問七 — 部⑦「その個数には、大きな差がある」とあるが、この差はなにによるものか。「くの差」に続くように、本文中の語句を用いて二十字以内で説明しなさい。

問八 空欄⑧にあてはまる表現としてもっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。  
ア 時期がずれる    イ 印象が違ちがう    ウ 趣おもむきが異ことなる    エ 実物とは異なる

問九 空欄⑨にあてはまる表現としてもっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。  
ア 六個以上    イ 四く五個    ウ 三個以下    エ 三く四個

問十 — 部⑩「どんな利点が考えられるでしょうか」とあるが、利点として考えられるのはどのようなことか。本文中の語句を用いて書きなさい。

問十一 空欄⑪にあてはまる語句としてもっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。  
ア 認識にんしき    イ 演出    ウ 追加    エ 注目

問十二 空欄AとCに当てはまる語としてもっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- |   |   |      |   |     |   |     |   |     |
|---|---|------|---|-----|---|-----|---|-----|
| A | ア | しかも  | イ | さらに | ウ | しかし | エ | また  |
| B | ア | ところが | イ | そして | ウ | しかも | エ | つまり |
| C | ア | そのため | イ | しかし | ウ | そして | エ | つまり |

問十三 本文中くく部「なぜ、ソメイヨシノの開花は、はなやか」なのか」とあるが、これについて、次の各問に答えなさい。

(1) ソメイヨシノの「はなやかさ」はどのようなものによるのか。「花」ということに着目し、文中の語句を用いて、本文で提示された順に三つ書きなさい。

(2) この文章では、このあと「なぜ、ソメイヨシノの開花は「はかない」のか」という「ふしぎ」について述べられる。「はなやかさ」と「はかなさ」に共通すると考えられるソメイヨシノの特徴を明確にして、「はかなさ」を感じる理由を説明しなさい。

平成三十年度 国語 解答用紙

受番 験号

名前

※のあるらんには、何も記入しないこと

※※ ていねいに書くこと。まちがったら消しゴムできれいに消してから書き直すこと。  
 ※ 句読点や「」などの記号は一文字分とすること。

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

問三		問一
(2)	(1)	
問四		問二
(2)	(1)	
問五		問一
問六		
問七		
(2)	(1)	
問八		
(5)	(3)	(1)
問九		(2)
問十		
問十一		
問十二		
問十三		
(2)	(1)	
3つ目		2つ目
1つ目		

※	※	※	※	※	※
※	※	※	※	※	※



右半分の欄削除  
の差

※	※
※	※